

平成29年度秋田県総合政策審議会  
第1回稼ぐ農林水産業創造部会 議事要旨

1. 日時 平成29年7月18日（火） 午後3時45分～午後5時
2. 場所 アキタパークホテル ゴールデンルーム
3. 出席者

【農林水産部会委員】

- |     |     |                    |
|-----|-----|--------------------|
| 佐々木 | 昭   | (秋田県漁業士会会長)        |
| 深沢  | 義一  | (農事組合法人美郷サンファーム代表) |
| 福森  | 卓   | (古河林業株式会社阿仁林業所所長)  |
| 正木  | 俊介  | (株式会社ドリームリンク専務取締役) |
| 今野  | 克久  | (有限会社今野農園代表取締役)    |
| 柴田  | ますみ | (農業者)              |
| 高橋  | 徹   | (秋田しんせい農業協同組合常務理事) |

【県】

- |    |    |                    |
|----|----|--------------------|
| 湯元 | 巖  | (農林水産部次長)          |
| 千葉 | 俊成 | (農林水産部参事(兼)水産漁港課長) |
| 山本 | 拓樹 | (農林水産部農林政策課長)      |
| 皆川 | 知  | (農林水産部農業経済課長)      |
| 本藤 | 昌泰 | (農林水産部農業経済課販売戦略室)  |
| 伊藤 | 真人 | (農林水産部農山村振興課長)     |
| 佐藤 | 幸盛 | (農林水産部水田総合利用課長)    |
| 齋藤 | 正和 | (農林水産部園芸振興課長)      |
| 小坂 | 純治 | (農林水産部畜産振興課長)      |
| 能見 | 智人 | (農林水産部農地整備課長)      |
| 齋藤 | 俊明 | (農林水産部林業木材産業課長)    |
| 櫻田 | 良弘 | (農林水産部森林整備課長)      |

【事務局】

秋田県農林水産部農林政策課

#### 4. 部会長あいさつ

##### ◎深沢部会長

冒頭で湯元次長から話があったように、去年までは委員が3人くらいであったため、今年度は人数が増えて大変うれしく思っている。活発な審議となるよう皆さんもよろしく願います。

先ほどの審議会で、知事が農業産出額の伸び率が全国1位になったと話していたが、これは大変喜ばしいことである。中には産出額の分母が小さいからだという言い方をする人もいるかもしれないが、各々が本気を出してきたということだと思う。地元で農業をしていて、競争的な思いをしながら切磋琢磨していこうという姿勢が見えてきている。そういった意味ではこの審議会でも、政策の策定に向け非常に重い責任を負っていると思うし、第2期プランの締めくくりにあたり、第3期のこれからのことについて活発に意見を出しながら議論を進めていきたいと思う。よろしく願います。

#### 5. 議事要旨

##### ◎深沢部会長

それでは次第に沿って進めさせていただくが、その前に一言申し添えたい。審議内容は議事録としてホームページに掲載される。その際には委員名は特に秘匿する必要が無いと思うので、公開としたい。

それでは議事（1）について、事務局から説明をお願いします。

##### □事務局（農林政策課）

～資料1により説明～

##### ◎深沢部会長

ただいまの事務局の説明について、意見・質問はあるか。今日は第1回ということで、主たるところは事務局からの説明になると思うが、質問等あれば出していただきたい。

～意見無し～

##### ◎深沢部会長

午後5時までと時間も決まっているので、先に進めたい。もし何か意見があれば、後で聞いてもらっても構わないので、次に議事（2）、当部会で所掌

する農林水産戦略の取組状況について、事務局から説明をお願いします。

**□事務局（農林政策課）**

～資料2、資料3により説明～

**◎深沢部会長**

ただ今の事務局の説明について、何かあったらうかがいたい。

～意見無し～

**◎深沢部会長**

資料の説明が終わってから意見交換という形で時間を設けることにしているので、質問が無ければ次の説明に入りたいと思う。では、次に議事（3）について、当部会で所掌する農林水産戦略について、事務局から説明をお願いします。

**□事務局（農林政策課）**

～資料4、資料5、資料6により説明～

**◎深沢部会長**

事務局の方から資料を用いながら説明があったが、戦略の方向性について、発言をお願いしたい。第3期プランにおける戦略骨子案については次回においてまとめる予定としているので、今日はそのたたき台となる議論をしたい。今日出席していただいている委員の皆様には、それぞれ専門とする分野があると思うので、それぞれの立場から質問などしていただければと思う。では、順番をお願いします。

**◎高橋委員**

現状分析や課題を抽出した上での方向性は、まさにこのとおりだと思うが、まず一点目に秋田米に関して、裾野がしっかりしてないと、山は高くなならない。これは当然のことである。このことを次期プランに挙げていただいたというところはありがたい。「攻め」もあるが、裾野や土台はしっかりと守らないと、上がぐらつくと思う。

まさに今、卸業者等の取引先による囲い込みが始まっている。その切り口が、種子である。F1であったり、あるいは我々から購入した種子から生産される米はすべて我々のものですよ、と。種子を押さえられると、自ずと

生産物の行き先も決まってしまう。ということで、最後はその言いなりになることも懸念されるところから、やはりしっかりと、秋田米全体の戦略を構築した上で、「ポストあきたこまち」という極上米の位置付けが必要。「つぶぞろい」も我々だけがやっているが、まだまだである。象徴的に価格の高いものを出しているが、その量は全体の0.1～0.2%という世界である。やはり全体をしっかりと売った上で、がんばった農家にはがんばったなりの見返りがあるという体制にしていきたい。そういう議論が一つほしいと思っている。

それから園芸メガ団地について。私たちのところでは2つの団地で夏場の花、小菊とリンドウが主力となっており、いわゆる旧盆の需要期に、非常に集中的に労働力の確保が必要となっている。ここに「秋田型の労働力調整モデル」とあるが、我々もJAとして、人材紹介事業をやりたいと思い、資格取得に向けて動いている。園芸メガ団地などを推進するのは良いのだが、実際に一気に1億円規模の団地を建設すると、労働力の確保について、一般に言われてるよりも現場はそれ以上に大変な面もあるので、そのところは団地ができたから良いということではなく、しっかりと労働力の確保ということも必要だと思っている。施策の方向性は間違っていないと思う。

いろいろまだ話したいことはあるのだが、これからの農業や人材流出という面では、私は、県立大学の秋田キャンパスももちろんだが、本荘キャンパスからも、我がJAや農業に従事というか、サポート役として活躍する場づくりも必要だと思っている。先ほどの審議会でも同様の意見があったが、私やJAグループを含め、秋田県人は情報発信が下手である。若い人の感性を活かしながら、いかに情報発信出来るか。

それから、生産者やJA等が持っている土壌分析や生育データを解析し、勘や経験値では無く工業的に目標とするものをつくりあげること。人気が高い酒蔵の獺祭（だっさい）には杜氏がないというし、カルフォルニアワインも工業的に作られていると話を聞く。例えば米について、分析に基づいて目標とするものを定め、センサー等を使い生育を制御しながら極上なものに仕上げる。そこには工学系の学生が活躍する場ができ、人材を流出させずに地元での雇用が可能となるのではないかと思っている。

施策の方向性はまさにこのとおりだと思うので、ここでこうした議論を深めていただければと思う。

## ◎正木委員

方向性としては本当に説明のとおりだと思うし、こういう大局的な部分からディテールまで、どこまで話せるかと思うが、時間が限られている会議な

ので、この県の今後、3年・5年・10年・20年を考える会議だと思う。もう少し大きなテーマというか、やはり「人」だと思う。

これは多分、審議会でもそうだし、専門部会でもそうだと思うけれども、やはり「人」というところにももう少し焦点を当てた議論をしていく中で、その先にディテールがついてくるのかな、と思う。目の前のことの議論よりは、できればこの会議では本当に5年後、10年後、20年後、どうすれば秋田に人が来るのか、秋田の人口が増えるのかというところを、農林水産業の観点からどこまで議論できるのか。その辺りが目指すべきところ、我々の最終的に出すべき方針かなと考えている。

### ◎福森委員

資料2の1ページ、農業生産も上がっているが、林業も素材生産量がどんどん増え続けてます、という表になっている。たくさん素材が出て良いじゃないかと言う意見もあるかもしれないが、木を切った後に植林されない部分が目立ってきているのではないか。それは木材価格が安いということもあるし、人手が無いというところもあると思う。秋田県は他県に比べて助成が大変手厚い。国や県の途切れの無いバックアップは、山地所有者に対して今後必要ではないかと思う。それによって雇用が生まれ、人も集まる。人が集まらなければ、いろいろなことができなくなっていくと思う。

あと、CLTという木材の加工技術や、木鉄ハイブリッドなどの技術があるが、これらのものは大量生産して大量に使われるものではないので、なかなか雇用や秋田県産木材の県外出荷にはつながらないのではないか。新たな技術があつて、こういうことにも使えます、と言っても、他の都道府県でもその技術は使える。家具などについて、秋田スギだから良いんだよ、木目がきれいなんだよ、という売りの方が個人的には好きである。秋田県でできたから秋田のモノが売れて、秋田の雇用創出にまでつながっていくかというところ、ちょっと疑問なところがある。もう少し施策について議論をした方が良いのかな、と思う。

### ◎佐々木委員

私は漁業のことしかわからないが、トラフグの稚魚を放流してもらっているおかげでトラフグの水揚げが結構あり、稼ぐことができています。また、冬場、ハタハタ漁が終わった後も、結構捕れている。秋田のトラフグなど、あまり聞いたことが無い人も多いと思うが、何年か前、山口県の下関に行ったら、水槽では秋田のフグが泳いでいた。形は大きいし、立派なフグが届いている、と言われた。九州の方では、捕り過ぎているせいなのか、1キロ前後

のものが多いが、秋田ではまだまだ捕ってないためか大きく育っているようで、2キロ、3キロ、4キロと、大きいものが来ていると。九州の人たちなどが、うらやましがっていた。トラフグの稚魚放流は続けてもらいたいと思う。

キジハタなども、去年あたりは15cmくらいだったが、今年は30cmくらいになっていた。継続して放流してもらおうとありがたい。大変役に立っている。鮭も相当な量が帰ってきて、それもやはり秋田県で協力して助成してもらっているけれども、国では支援しなくなっているの、だいぶ助かっている。

漁師もなかなか儲からない。儲かる家の子どもは漁業を継いでいるが、儲からなくなった家の子どもは継承せず、漁業者はだんだん減っている。やはり、儲けていけば後継者が出てくるという面もあるので、農業についても、儲かれば、子どもが継ぐのではないかなと思う。

#### ◎今野委員

人口が減らないと言われる大潟村から来ました。担い手について、我が家も有機栽培の米をやっているが、短期雇用していた女性たちが今年は、半減し、新しく雇える人は当然、いない。ということで、今年から人手ではなく、アイガモ農法に切り替えようと。人が減っていく中でベトナム人を雇おうとか、そういう話も村では出ているが、施策の方向性のところでは、そういうことはあまり想定していないのではないかな。人口を増やすという視点では、外国人労働者はあまりイメージされていないんだらうなと思っている。

どうすれば農業で働いてくれるだろうか、ということを考えている。この間、GAPのセミナーに参加した時、山形の一般の農家で6次化にも取り組んでいる方の話を聞いたが、GAPに取り組むと、農家経営が普通の会社になるという言い方をしていた。一般企業と同じような雇用体制を作れると。農業も、普通の会社と同じような就職対象と見てもらえるような経営になっていかなければならない。これが法人化の最終的な目標なんだらうな、と思った。

おそらく、公共、土木関係も女性が今は入っておられるが、農業経営はどうしてもこういった方々が入りづらい。入った方の話を聞くと、まあ、男性と着替える場所が違ふとか同じであるとか、トイレとか、良く聞く。そういったところの整理をしっかりとっていくことが今後、必要になってくる。企業として魅力のある、働くやりがいのある農家経営を、法人化していく上で目指していく。要は当たり前のところを農業の現場に落とし込むことが必要になっていくんだらうなと思っている。

ICTに関連して、大潟村ではかなりコスト削減が進んでいると思っている。最終的にどこまで行くんだろうと思ったときに、GPSで直播をしながら夜も働くのかなあ、と考えたりする。一体、一日に何町歩やるんだろうな、という感じになるが、私自身、今、父親のほ場を含めて30町歩をほぼ一人でやっているような状態である。最近、我が社はブラック企業なのかな、と思うときもある。その辺のワークライフバランスもある程度、会社としてしっかりしていかなきゃいけない。その手段の一つとしてGAPなり、そういったものがあるのではないかな、と思っている。

### ◎柴田委員

私もそれほど経験があるわけではないが、今までの説明を聞いた中で自分が思ったことについて。秋田のえだまめのシェアが大きくなったということもあるが、去年、枝豆の販促に参加した際、業者が言うには、品質が一定でない、と。量はあっても品質にばらつきがあって、前年度すごい良いものだったので予約で買い付けしたのに、去年より味が落ちていた、と。そういう部分があったので、重点品目で量産することを目標とするのは良いが、ある程度の品質という部分も重点的にしていかないと、継続した販売につながっていかないのではないか、ということをととても感じた。

あと、担い手という部分で、うちも本当に人手不足で全然、サイドも回らないような状態。そうするとやはり、県内以外のところからも人を呼んで雇用していけるような状態まで持っていきたいとは思いますが、今の農業だと、なかなか魅力的なものがない。

でも最近見ていると、女性でも農業に参加してくる方が、農業の研修に行ってもやっぱり女性の姿が見えるようになってきている。今までは男性主体で女性が補助的という部分もあったと思うが、女性の方がやはり元気があって、自分でやってみたいという意欲もあるので、そういう部分を生かしていけるような、もっと女性が主体で動きやすいような形にしてあげると良いのかなと。簡単な作業だから女性がやれる、というだけではなく、意欲的な人たちをどういう風に受け入れるかということも重要なのではないかと感じた。

### □ 湯元次長

いろいろな御意見をいただき、感謝する。最後に部会長にまとめていただければと思うので、私から一つずつ答弁したいと思う。

高橋専門委員からお話のあった、いわゆる新たな米づくりの戦略について。現在我々も検討しているところであり、次回までにお示ししたいと思う。そ

れから、県立大学の本荘キャンパスについて。大学関係者と場を持ちながら、どのぐらい地元参画ができるのかを協議していきたいと思う。

正木委員から御提言のあった、5年・10年後の人材育成について。理想的にはそうした方向性があるのかなと思っている。我々農林水産部の段階と企画振興部、いわゆるオール秋田の段階で、どのぐらい農業分野の「人」というものを示せるのかも議論しながら、案をお示しして御意見をもらえればと思っている。

福森委員から御指摘いただいた、稼ぐという部分と雇用につなげるという部分について。我々としてもなかなか難しいなあと実感しているところである。CLTもなかなか雇用につながらないという話もあったので、実際的にどのぐらい雇用という部分を生み出せるのか、一つの戦略として打ち出していきたいと思っているので、そのあたりも次回まとめて、一定の方向性をお示しできればと思っている。

佐々木委員からお話のあった、水産関係について。いろいろ強みが秋田にもあると思う。それをどう打ち出していくのか、安定的な供給がどこまでできるのか、それから秋田の魚や漁業に関する情報の発信という話もあったので、そのあたりも含めて検討していきながら、お示ししたいと思う。

今野委員から御指摘のあった外国人の受け入れについて。実は我々も特区という規制緩和の中で、移住の促進という部分に大潟村が考えているような外国人の受け入れという視点を入れながら、最終的にはまとめたいと思っている。今後お示した案の中で、広く御意見いただければと思う。

柴田委員からお話のあったえだまめの品質管理について。我々も大きな課題だと認識している。量と質のばらつきがないようにという部分を認識しながら、販売戦略としての落とし込みをどこまでやるかということについては広く意見をいただきながら進めていきたい。それから、女性の活躍について。建設業も含めて注目されている分野なので、秋田の女性が働く場・働く姿を打ち出して、示せればと思っている。

## ◎深沢部会長

最初、高橋専門委員がお話ししたように、米に関する施策の方向性について、私は土台ではないかと思ってる。今野委員の話にもあったように、大潟村はモデル農村と、私たちはよく言うが、あの最初のように、15町歩の農地を配分した。あれが仮に7町歩半だったら、大潟村は他の地域と同じように、失われていくと言われるような、人口減少に結びついていたのだろうか、と。けれどもあの時、15町歩という数字を出したということが、先見の明だった、すごいと思うし、それが今日のこの第1回稼ぐ農林水産業創造部会



という、「稼ぐ」イコール「継続につながる」ということだと思っているので、やはりそこはきれい事ではない、生活するに足りる収益を上げるということが絶対に大事と思うので、その辺のことも考えながら良い施策を出していければと思う。

労働力不足ということについて私からも言いたい。最近は複合化に取り組みれば取り組むほど労働力不足ということを非常に強く感じている。以前はちょっと手伝ってくれと言えば来てくれた人たちがいたが、最近はほとんどいないということを感じている。

それから、今野委員が話していたが、ワークライフバランスとか、そういうところから「高質な田舎」につながるのではないかなということも、思っている。

最後に1つ、労働力不足、人手不足ということで、私も県外の研修に行ったとき、長野県の川上村という、もし間違いがあれば申し訳ないが、全国1位だという生産額、確か1軒当たり5000万円だったと思う。そこは完全に中国人を雇っている。それからこの近く、JA十和田おいらせでは、すごいメガ団地で人参や芋を生産し、流れ作業で人参が弾丸のように流れていて、梱包などの作業にあたっているのが中国人あるいはフィリピン人とか、そういうことを話していた。

それが逆に地域に与える影響はどのようなものなのか、単なる問題提起に近いような話になったが、そんなことを私も思っている。

次回、また議論を掘り下げていきたいと思う。

#### □ 湯元次長

今日いただいた意見に対して、我々のたたき台もしくは方向性として持っている案をお示ししながら、次回、意見を深めていただければありがたい。

#### ◎ 深沢部会長

時間も迫ってきたので、大変申し訳ないが、最後に議事（4）について。事務局から何かありますか。

#### □ 事務局（農林政策課）

今回の専門部会は、皆様のご都合を事前に確認の上、8月7日を予定している。今回の専門部会では、本日のご意見などを踏まえ、施策の骨子案をお示ししていきたいと思う。今後も部会の開催の時だけでなく、情報の共有に努めていきたいと考えている。

◎深沢部会長

まだまだ意見もあろうかと思うが、そろそろ予定の時刻となったので、議事に関する意見交換は終了させていただく。事務局は、本日の意見を参考にして、骨子案の作成にあたっていただきたい。

□事務局（農林政策課）

本日は長時間にわたってご審議いただき、ありがとうございました。以上をもって、平成29年度第1回稼ぐ農林水産業創造部会を閉会します。